水資源の保全

サントリーの事業は水や農作物といった自然の恵みに支えられています。
「水と生きる」企業として、水の循環に負荷をかけない事業活動の実現をめざし、活動を強化しています。

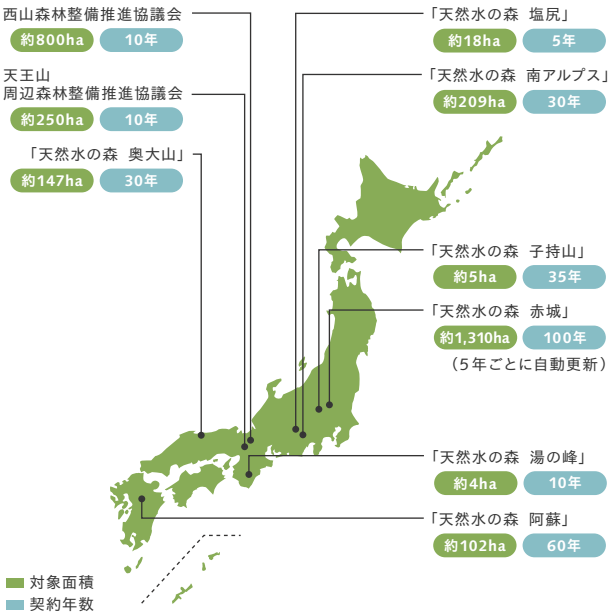
●「水のサステナビリティ」の実現に向けて

「水と生きる」企業が循環型社会の中で果たすべき責任として特に重要なテーマは、「水のサステナビリティ（持続可能性）」を実現することだと考えています。サントリーでは、その実現に向けて、水を育む森を守り、水を大切に使い、きれいにして還す活動を強化しています。

●「水源涵養（かんよう）活動」を順次拡大

水を育む森づくりは、かけがえのない地下水（天然水）の持続可能性を守る活動です。サントリーでは、2003年から工場の水源にあたる場所を中心に、国や自治体と協働して、長期的・科学的な視点に立った「天然水の森」活動を展開。全国8府県9カ所でエリア固有の自然環境や、生態系に十分に配慮しながら、高い水源涵養機能を長期にわたって発揮できる森づくりを進めています。

○水源涵養活動の状況



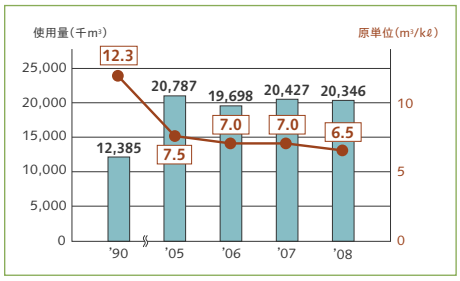
2011年7,000haを目標に「天然水の森」を拡大

2008年には、「天然水の森 南アルプス」（山梨県）と「天然水の森 赤城」（群馬県）を拡大、現在では、総面積1,795haの森で活動を展開しています。今後、工場で使用する地下水量を上回る水の涵養をめざして、2011年までに水源涵養面積を7,000haに拡大していく計画です。

●水使用量の削減を強化

工場では製品の中味に用いる水以外にも、生産設備の洗浄や冷却用など多くの水を使用します。限りある水資源を大切にするために、省水化を徹底するとともに、水の再利用・循環利用技術（ピンチテクノロジー）などを導入。工場ごとに中期目標を設定し、水使用量の削減に取り組んでいます。2008年の生産量は増加しましたが、節水活動の強化により水使用量・原単位ともに減少しました。

○用水使用量（国内24工場）



※総量で1990年比64.3%増、原単位で47.2%減
※原単位は製造1kℓあたりの使用量を表します

●24時間体制で排水管理を徹底

排水をできる限り自然に近い状態で還すため、法律より厳しい自主基準を設定し、水質や水温などの排水品質を管理しています。工場から排水される水は嫌気性排水処理設備などで浄化処理された後、24時間監視体制のもとで下水道や河川に放流しています。

社員による森林整備体験

社員に対する環境教育の一環として、「天然水の森」森林整備体験を行っています。2008年はサントリー「天然水の森 奥大山」をはじめ全国6カ所で実施し、グループ社員とその家族298名が森林整備体験に参加しました。

「天然水の森 奥大山」での森林整備体験

奥大山ブナの森工場が日経ものづくり大賞を受賞

奥大山ブナの森工場（鳥取県）は、最新の環境保護技術を導入し、水やCO_2削減に配慮したエコ工場であることが認められ、日本経済新聞社主催の第5回「日経ものづくり大賞（2008年）」を受賞しました。

サントリー天然水（株）
奥大山ブナの森工場